kosei
生かされ、生きるチカラ。

「おかげさま」の心で、妻とこれからも。

宇和島教会　兵頭靖裕さん

平成11年、兵頭さんの妻はうつ病を患ってしまう。妻の異変に気づかなかった兵頭さんは、「妻を追い詰めたのは私だ」と自責の念に苛まれた。しかし、支離滅裂な言動を繰り返す妻に、カッとなって怒鳴ったり、手を上げてしまうこともあった。そんな折、「あなたのなかに、奥さんに変わってもらいたいという思いがないですか?」と諭され、ハッとする。兵頭さんは仏教の教えにならい「自分が変われば相手が変わる」ことを実践していたつもりだったが、そうではなかった。同時に、妻は、自分が思いやりのある人間になれるように仏さまが授けてくださった人だと思った。こうした気づきを得て、兵頭さんは、「周りの人が安心してそばに寄ってきてくれるあったかい人間を目指して、これからも妻と一緒に歩んでいきます」と決意を語った。

常不軽菩薩のように

常不軽菩薩は、出会う人のだれに対しても合掌・礼拝し、「私はあなた方を敬います。決して軽んじません。あなた方は、菩薩の道を行じて必ず仏になる方々だからです」といって賛嘆しました。しかも、そのことによってどんなにひどい仕打ちを受けても、人を見下げたり、怒りや憎しみを抱いたりしないで耐え忍び、罵声や暴力から身を遠ざけながら礼拝行に徹したのです。

当たり前のことですが、私たちは太陽や水や空気がなければ生きていけません。大きくとらえれば、そうしたものへの感謝は、私たちにとって大切な礼拝行です。天気に文句をいわないのも礼拝の一つであり、水を大切に使い、ものを無駄にしないというのも合掌の一つのかたちでしょう。人に不平不満や愚痴をこぼさないのも、悪口や怒りをぶつけないのも合掌・礼拝の実践ですし、それは相手の仏性を信じて敬う、人間としてのつとめともいえます。

つまり、身近な行動や態度や言葉の一つ一つが、どれも合掌・礼拝を身であらわす行だということです。そして、そのことをとおして、私たちは自分の仏性を自覚し、また相手にも、みずからの仏性を自覚せしめているのです。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp　Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615